

受検者の注意事項

- 国民健康保険で実施する一般健康診断(口腔検診を含む)は、2年に1回(事務所以外の勤労者は1年に1回)、医療給与生涯転換期検診は、医療給与受給権者満66歳以上で2年に1回、乳幼児健康診断は、生後4、9、18、30、42、54、66カ月期に受けることができます。決まった検診数を超えると当該検診費用が請求されます。
- 問診票は検診時に検診医師の受検者に対する正確な診察や健康状態判定における重要な資料となりますので、漏れなくご記載ください。
- がん検診は本人に該当する検査項目を選択して受けることができ、受検者が検査費用の10%を負担します。(但し、子宮頸がん和大腸がん検診は国が実施する国家がん検診事業によって対象者のがん検診費用全額を国民健康保険が負担)
- 満50歳以上が対象になる大腸がん検査は1次で便潜血検査を実施した後、陽性判定者のみが大腸二重造影、または大腸内視鏡のうち1つを選択して検査を受けることができます。
- がん算定特例者または大腸内視鏡検査から5年が経過していない受検者は、当該がん検診の猶予ができます。
- 一般健康診断(口腔検診を含む)、乳幼児健康診断及び子宮頸がん検診、大腸がん検診の検診費用は、国民健康保険で全額負担とし、医療給与生涯転換期健康診断は、国で全額負担します。
- 生活習慣評価(喫煙、飲酒、運動、栄養、肥満)は満40・50・60・70歳に実施し、生活習慣改善のための処方せんは投薬や調剤のために使用することはできません。
- 健康診断前に8時間の空腹状態を維持していない方、夜間勤務を行った方、生理期間中の女性が検診を受けた場合、正しくない検診結果が出る恐れがありますので、健康診断の遵守事項を守った上で検診を受けてください。